

「ろうきん森の学校 10周年記念シンポジウム」の報告

「森を育む」・「人を育む」・「森で遊ぶ」を活動の柱として、富士山・福島・広島の全国3地区でNPO法人や地域とともに活動を展開してきた「ろうきん森の学校」が、今年で10年目を迎えました。これを節目に、2015年2月12日、活動の成果を広く報告するとともに、企業とNPOが協働して取り組むCSR活動の意義とこれからの方向性を広く議論する「ろうきん森の学校 10周年記念シンポジウム」が開催されました。

シンポジウムの基調講演「ローカルベンチャーが地域を変える」では、株式会社西栗倉・森の学校代表取締役牧大介氏から、豊かな自然や文化を生かした若者の起業を支援し地域活性化に成功している岡山県西栗倉村の取り組みが紹介されました。

パネルディスカッション「これからのCSRを考える～企業とNPOが目指すべき協働のあり方～」では、パネリストとして牧大介氏（株式会社西栗倉・森の学校代表取締役）、志賀誠治氏（NPO法人ひろしま自然学校代表理事）、町井則雄氏（日本財団総務部企画推進チームリーダー）、糸谷元志本会総合企画部長が企業とNPOの連携の方向性について意見交換しました。

ろうきん森の学校は、富士山・福島・広島の3地区で現地のNPOと協働で里山の再生をテーマとした活動を行い、10年間の活動参加者はのべ11万人に上ります。さらに2015年4月からは、これまでの3地区に新潟・岐阜を加えた5地区で第2期事業(10ヵ年)が始まります。



中江理事長による開催挨拶



基調講演「ローカルベンチャーが地域を変える」



ろうきん森の学校活動報告



パネルディスカッション「これからのCSRを考える」